

第 3 号

昭和56年 8月16日

静岡県立磐田南高等学校同窓会

印刷 総合印刷(株)大進堂

# 同窓会 だより



## 祝 結 成

### 京 都 支 部

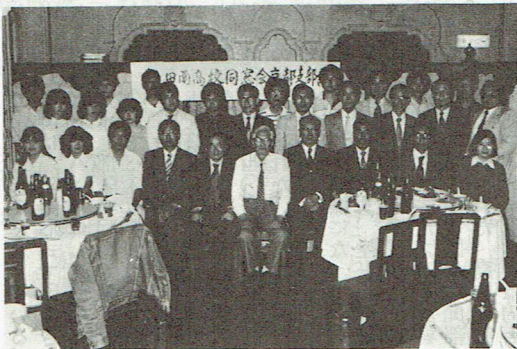
京都に在住する同窓会員は、現在約一〇〇名おりますが年々増加の傾向にあります。特に京都の大学へ進学する学生は毎年十五名ぐらいいおります。(入試合格者は約五〇名)支部結成は、会員へのサービスと相互の親睦をはかるばかりか、学生に大きな福音になるものと信じます。今後の益々の発展をお祈りするとともに役員の皆様へ感謝申し上げます。

#### 同窓会京都支部長

見中第十六回生

堀井 泰弼

五月晴れの五月二十三日、京都支部総会が京都四条大橋畔東華菜館で



開催され、支部OB、在学生、新入生の三十五名が出席いたしました。旧臘十二月六日に京都支部が発会いたしました。今回は御多忙の中に同窓会長百合山智通氏、学校長安間祐一先生の御臨席の下に、一応名実共に誕生することになりました。お二人が御出席下さいましたことは、支部といたしまして光栄の至りであり、大いに意義上るものと思っております。発会の時にも感じたことでもあります。卒業約四十年間、なんらの声すら聞かれなかった同窓会支部が、なんらかの形で生れ出たことに大いなる意義を感じるものであります。私達は余りにも長かった空白の年月を振り返り、関西支部学生の本会ハグマ会の山崎君等とよく検討し、今後はハグマ会と一ツとなり、一步一歩進んで行くのが理想と考えているのであります。

又、今回の総会でもう一つの意義は、関西支部の活動の一部として大阪支部結成のためのオブザーバとして、京都支部発会のため色々々と尽力下さった浅田 厚氏、高橋 晋氏等七名の御出席をいただいたこととあります。これは関西に於ける支部が近々実現するということであり、京都、大阪(更に兵庫等)相協力して同窓会活動が出来るものと期待してよいと思っております。

#### 京都副支部長

見中第十六回生

大司 敬

京都に見中、南高校の同窓生がこれ程に大勢、在任していたとは夢にも知らなかった。小生のところに、昨年の秋、同級生の堀井君から電話があり大変おどろいた訳ですが、それ以来、京都支部発足の話しが持ち出され今日の努力が創り出されて来た。堀井支部長の努力には深く敬意を表する次第です。

小生も戦後、京都に移り住んで三十余年、同窓会と言った支えもなく、知らぬ土地で遮二無二やって来たことを思うと、京都支部の出来たことは本当に百合山会長の言われた同窓会オアンス説に思わず膝を打った次第です。京都の大学に進んだばかりの会員の方を含めて、なにかの寄りどころとなる磐田南高校同窓会京都支部のこれからの発展継続に、堀井支部長の提言されたいっつも続く肩のこらない集いとして京都支部の育成に、同級生の池田君と共に古参の人として参加を続けて行きたいと思っております。

#### 京都副支部長

はぐま会関西総支部長  
立命館大学四年

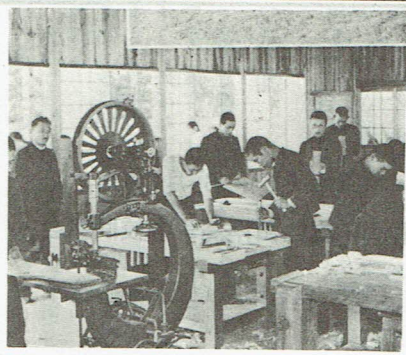
山崎 一英

故郷を離れ、希望にあふれ都大路に足を踏み入れ早三年、この大學生活の中で、磐田南高の同窓会活動の仕事は、今になってふり返ってみれば、かけがえのない財産と言えるような気がする。私は二年の時からはぐま会関西総支部長として、自分なりにいろいろな問題を解決しながら活動を進めてきた。しかし翌年、任期が切れた後は、後継者がいない。という問題に直面し、会としての活動は、完全に低迷してしまっただけで、そんな時、現支部長の堀井氏から、「京都支部を作りたいのだが、学生のまとめで役として力を貸してほしい。」という要請を受けたのだった。私は、同窓会活動に学生が参加し、縦のつながりを深めると同時に、はぐま会活動も、同窓会に追随するという形で再生できれば、理想的なものになると思っただけで、その後堀井氏と意見がかわりながら、積極的に組織作りに参加し、総会の計画から準備、規約の作成など、あらゆることをやりました。

# わが年次

## 南高第三回生

鈴木儀兵衛



私達が小学校から見付中学へ入学したのは、太平洋戦争末期の昭和二十年四月である。上級生は学徒動員で軍需工場へ、我々下級生は近隣農家へ食糧増産のために出動した。年取った兵隊とジャガイモを作ったり作業中空襲にあつて、海岸の松林の中を縦横機に追われて逃げ回つたりした。農家の人達が時折折くれた西瓜を防空スキンでくるみ、うれしくて走つて家に帰つた事も、今はなつかしい。終戦によつて、磐田の街にも進駐軍の米兵がみられ、百八十度回転した社会状況や教育に、いささかのとまどいを感じながらも、積極的に消化吸収できた事は、先生方の大き

な御苦労であつたものと思つている。当時の教科書は、新開形式で印刷されており自分でハツ切にして使用した。旧百二十九部隊の兵舎の松下げを受け、全員でハメ板をかきつけた校舎増築や、いも畠になつていたテニスコートを修復する作業もあつた。中学三年生の時六・三・三制の新学制が施行され、四〇名の人達がそれぞれ道に進まれた。磐田第一高校をへて、磐田南高校と校名が変わり、女生徒も入つて来る様になつた。クラブ活動も活発になり、陸上での全国優勝を始め、弁論部や、演劇部が誕生し市内町にあつたスバル劇場で公演が行われ、校内新聞が新聞部の手によつて発行された。高校卒業生百九十六名中、大学進学者は約百名であつた。我々同期の者は、こうした事情から変化の多い中学三年間高校三年間の計六年間同じ学校で学んだわけである。統制によつて限られた範囲の中から飛び出した若者にとつて新しいのびのびとした環境は、物質的にはまだまだ恵まれていたとは言えなかつたが、苦業を共にし、学んだだけにその意義は大きい。入学当時大きな建物だと感じた剣道場も今は、新しい校舎のかげにかくれている。激動の時代に我々の年代の人間は、国宝的存在であると言ふ言葉が聞かれるのも無理からぬ事だと思つている。

卒業して三十年、今年の慰霊祭は、我々三回年の当番である。すでに十名の同級生が亡き人となつてゐる。総会当番年次以来、毎年各地区幹事持ち回りで同級会を盛大に開催しているが、前年一緒に盆をかわしながら



ら話に花を咲かせた人が亡くなつて、今年は一入減つてしまつたと言ふ現実が直面すると断腸の思いである。磐田ヶ原の丘の上で陣纏の音色朗らかに……とみんなで応援歌をうたう時、心の底から何とも言えないぬくもりと、仲間意識を感じるのには、何ものにも勝る心の支えである。心から亡き友の冥福をお祈りすると共に、来るべき植樹祭を、現同級生全員で迎えたいと願うものである。

## われら十二回生

青島 公悦

私達は温和な世相を背景にした昭和三十二年四月憧れのハグマの校章を手に入れた。これを胸に飾り、頭上に乗せた時はさすがに帽子が大切に思え、喜びを隠すことは出来なかつた。当時を航空写真で見ると母校の周囲は畑ばかりで広い田園の中に学舎が建ち、その西に少し離れて古惚けた平屋木造の市立病院があつた。学生服は男女共今のそれとは大差な

い。当時は白のダスターコートが非常に流行つた。コートを着ることが優越感をそそつたのか次第に広がつていた。元々がレインコートであつたので修学旅行の雨の京都は黒い学生服が白一色のコートに変わったのである。一クラス四〇人位の教室に女生徒は七、八人、入試以上の競争率で気の弱い私共には女性には縁がないものと諦めていた。今では想像もつかない時代であつた。尤もあの当時翔んでいた仲間が相当いたことを承知している。私共の時代に出来たクラブに英米文化研究クラブやバドミントンクラブ等々があつた。今でも存続しているだろうことを願つてい

る。当時の野球部は九名がなかなかなわぬ程で今夏のベスト8進出など夢の中の夢であつた。それだけにOBの中として今夏の活躍は降つて湧いた大ニュースで驚きと喜びであつた。違いのないだろう。私も感極つて大声で校歌を唄つていた。スポーツクラブの花形は何と言つても陸上競技クラブであつた。熱には熱を、これが育ての親伊藤藤菊先生のログセであつた。その熱心な御指導に心え真暗くなりそうなグラウンドで練習に励んでいた姿が懐しく甦える。その成果もあつて井指選手は四〇〇メートルは超高校校級であつた。団体にも出場し当県のアレンジ色のユニホームが独走する様をラジオで手に汗を握つて聞いた。八〇〇メートルリレーは各選手が素晴らしい記録を残しインターハイ準優勝の大きなポイントとなつた。棒高跳、走高跳、三段跳も大変有望であつた。クラブ活動のもう一面の思い出は文化祭の準備を先輩や後輩と合宿をして行つたこと



である。各クラブが我こそと競つて研究成果の発表をした。体育祭は先輩に習つてクラス別にヤグラを組んで高い所からグラウンドを見下した。この時の記憶と言えは婦人会から借用した浴衣で有志の民謡踊りを楽しんだこと。半月前から授業が終ると机を片付けて見振り手振り仲間迷指導を頼りに一生懸命頑張つた。その成果もむなしくグラウンド中央に繰り広げた踊りの輪は格好こそついていたが統一はとれずバラバラであつた。そんな可もなく不可もない中で何か燃えるものをいつも感じていた十一回生であつた。そう言えば古長(古田先生)、エロ貞(水野先生)カッパ(小沢先生)、ガタ(岩田先生)、カンチャ(中村先生)、ジョッパン(松下先生)、デンスケ(立石先生)は御健健で、どうか。受持ちだつた化学の埋田、歴史の寺田、化学の鈴木、人文地理の萩野、数学の大桑の諸先生お元気でしょうか。滋にあの時の十二回生が年次の大責を果たし終えましたことを報告致します。

# 思い出

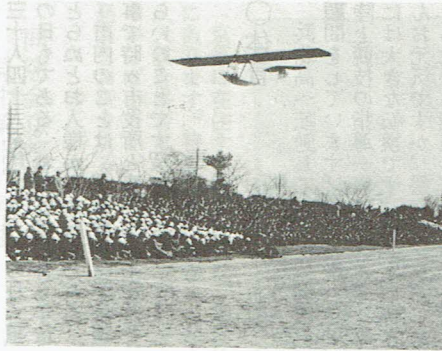
## 見中第八回生

川嶋 辰男

私も見中八回生が卒業して以来四十七年を経過しましたが貨幣価値の変遷はもつと遠き隔たりを感じさせられる思いが致します。五年生の一学期と記憶するが何日か定かでない。

正門北側に在学中待望久しかった一万円図書館が完成されました。天井は四角の一枚板の額縁、赤味がかった床板と近代的な偉容は当時の吾々には正に感激そのものでありました。それと同時に先輩諸兄の積立金が吾々の卒業期に花開いた幸せと誇りを禁じ得なかつたものです。吾々が建てたんだ吾々が手で造った築き山なんだと云う愛着が愛校心に連がり級友の温かき結び合いとなるものでしょう。無償で与えられたものには感謝も愛情も生じないものです。初めてスリッパに履き替え図書館に入つた時は今も忘れられない懐しい思い出でございます。それにしてもこの一万円という金の価値の開きの大きいことよ、現在では一万円は高校生の小遣い程度でしかないですからね。少年時代神秘とされ和歌に詠まれた月世界も月旅行切符の契約者が日本国内でも百余名おられる時代ですから任方がないことでもありません。私共も老骨などと云つて甘

えていけない時代に即応出来る心構えだけでも持っていたい昨今です。



## 見中第十八回生

大橋 和夫

入学が昭和十四年四月であるから日支事変の戦火もいよいよ拡大し、皇軍は連戦連勝と報道されていた時代、日米開戦を加えてこの五年間はさびしく銀えられた。

一年生の夏、プールの跳び込み台の上段から突き落とされたこと、未明の寒げい古でしごかれ突きとばされたこと、週番室に呼び出されお説教を喰つた事、上級生は何かと怖い存在だった。

「教練」も忘れられない。一年は基本動作、号令調声の繰り返しして時々息を抜いてはトクサに叩かれたものだ。二年では銃剣道、三年以降三銃の操作、射撃、野外教練、徹夜の合同演習等々戦時教育が加速の度を増した。予科練、陸士、海兵を憧れ、志す者も多かった。

こういう時代でも、女学生を道ったり、仲良くなった話、春本の回し読みが発覚した事など耳にしたが詳細は当事者のみが知るところ。

七時四十分始業のサイレン、門前に立つ週番、朝掃除、各授業前の正座、近づく先生の足音、頭上に響く昼のサイレン、断片的だが昨日の事のように蘇える。五年間に接した恩師の顔が、声が、浮んで来る。同時に「少年易老学難成・階前梧葉已秋声」の訓えが実感として迫ってくる。

## 南高第八回生

国松 勇

私達が入学したのは、昭和二十八年四月のことである。一年の校舎は、古い兵舎で、床が黒くひかっていた。当時、学校では、週休五日制の研究をしていたらしく、土曜日は休みでうれしく思ったものでした。しかし英語の宿題は、欠かさずあり、やらねばならなかった。

今年、野球部が県下九十四校中のベスト8に進出し、うれしいことです。当時も運動はさかんであり暗くなるまで学校に生徒が居た。私の属した歴史クラブも、普段はあまり活動しないが、夏休みに伊豆半島に視察に行くことがあったのしみの一つであった。鎌倉時代を中心にした伊豆の歴史を實際にみることはよい勉強となった。修善寺・大仁・葦山等の寺や文学碑等をたずねあつたことをなつかしく思い出します。その頃、狩野川の川原も広く明るい田園風景をみせており、温泉も町なみにとけこみ、落ち着いた魅力があつた。大仁の町の中心に共同浴場があ

り、泊つた寺をぬけだし、フロ屋に入ったところ、男女混浴であつたこととおぼえている。そのように、どこでも、物が不足し、食べものも粗末であつたが、毎日の生活がたのしく明るくせせこせしなかつたように思うのは、私だけだろうか。

## 南高第十八回生

安間 英雄

南高生活の三年間、思えばその全てが楽しい思い出である。期待と不安を抱き、ちよっぴり背のびした気分での一年生。勉強をしなければと思いつつ、サッカーに明け暮れた二年生。硬派を気取り大人になった気分で卒業をしていった三年生。一定のワクの中にも自由闊達に、自覚しながら高校生活を楽しませてくれたのが、南高の校風であつた。

多感な青春の三年間を南高で過ごしたことは誠に幸せだつた。喧嘩をしたこともあつた。恋をしたこともあつた。



あつた。そういつたことが、今鮮烈によみがえってくる。

クラブ活動の夏季合宿のつらかつたこと。文化祭のフォークダンスの輪の中に、フォークダンスができないからと、意地けてサッカーボールをけりこんだこともあつた。

また、校内サッカー大会において、サッカー部の面目にかけ優勝したのも楽しい思い出である。

三年の夏休みには友人三人と、先輩のお寺に受験合宿と称して、約一ヶ月間、こわおお寺の本堂に勉強に励んだのか、遊びにいったのかかわらないが寝泊りしたこともあつた。良く遊び、適当に学んだ。それも、これも南高でのよき思い出である。

## 数学教師

田中 良夫

見付中学での思い出はなんといいても作業教育。学卒の身で新任早々に驚かされたことは、あの五〇米プールが生徒の手によって掘られたという事、そしてその掘り上げた土によって防風堤が築かれたということでした。私が在職中は裏門に通じる道路の舗装、東海道(バスが通っていた)に面した東側の崖づくり作業、これはずいぶん困難な作業でしたが、当時の生徒諸君は楽にやってくれました。山を開墾して栗の木を植えたこと、また、サツマイモの栽培等農作業もさかんにやりました。それからもう一つ、見付の住人として数名の生徒と裸祭に参加し、腰ミノ姿で町を歩いたこと。今ではとても体験できない思い出がいっぱいあります。

便り

恩師

○元校長 大沢 正人

同窓会機関紙を発行されるとのことと誠に慶賀に堪えません。

見付中学として創設以来、来年は満六十年。制服の変遷、校名の変更を経ながらも、多くの若人の青春の夢をはぐくみ、幾多の人材を輩出したその歴史と伝統とは偉大なものがあります。歴史・伝統を抽象的なものとすれば同窓会はその具体的な姿と申せましょう。ますますのご発展を祈念いたします。

私は昭和三十八年から三年間在任いたしました。赴任の第一印象は「緑の学校」ということでした。その緑も歴代の同窓の皆様のご努力によるもので、体育館もこの緑の運動場を、なるべく削らないようにと考えて、現在の位置を選んだことを思い出します。緑の学校永遠に……

○国語 市川 彰

歲月流れ、見中卒業してもう五十二年、教官をした頃から三十七年、かくて来年は古稀を迎える。その間まことに幾山河、磐田にゆつくり腰を据える期間が割に少なかった私である。それでも、私なりの人生の責務を大方果たしたつもり。只今は、私の本



務である宗教の教化生活に余生を捧げている。

BS運動の尾崎大先輩にあやかり、年はとつても子供たちと年中一日の休みなくつきあっている。多い日は三十人四十人を越える。雨の日も風の日もである。おかげで割合と年はとらぬとお人様からからかわれる。市内のことは、選挙管理と学校理事で時々市役所と東高へ参上するぐらいのことです。

○体育 佐橋 保

浜北高へ転動し二年目、体操部の顧問をしています。警南で十六年間、陸上競技の指導一筋に生きて来た私には大きな転換です。卒業生の皆さんお元気ですか、警南のプライドをもち大いに頑張ってください。ご健斗をお祈りします。

学 校

運動部の活動状況

陸上競技 東海大会

一六〇〇米リレー 優勝

四〇〇米リレー 二位

棒高跳 六位

四〇〇米 二位と五位

水泳 県大会

一〇〇米バタフライ 五位

二〇〇米バタフライ 五位

一〇〇米平泳 四位

女子二〇〇米バタフライ

野 球 県大会

一回戦 本校八一五三ヶ日高

二回戦 本校二一〇掛川工高

三回戦 本校四一〇焼津中央高

四回戦 本校四一〇吉原工高

準々決勝 本校〇一三浜西高

バスケットボール

男子 県大会

本校八二一八四富士高

女子 西部大会

本校一〇七一七引佐高

バレーボール 西部大会

本校二一〇引佐高

男子 本校〇一三浜川工高

本校〇一三浜松工高

女子 本校二一〇浜東高

本校〇一三浜松市高

テニス 県大会

男子 本校〇一三静学園

個人は四回戦まで

女子 本校〇一三沼津学園

卓 球 西部大会

男子 本校一〇一四掛川西高

女子 本校一〇一四浜松南高

バドミントン 県大会

本校二一〇静岡北高

本校一〇一伊東高

柔道 県大会

本校一〇一清水商高

弓道 西部大会

男子団体 二位

女子団体 一位

剣道 西部大会

本校二一三掛川西高

サッカー 西部大会

本校七一〇引佐高

本校八一〇湖西高

本校三一〇聖隷学園

本校〇一三浜松西高

事務局

会務報告

10月 本部役員会

11月 関東支部総会 会長校長出席

12月 京都支部総会

1月 卒業10年会 高22回生

2月 磐田市役所支部総会

3月 記念植樹 見中6回生

4月 総会担当年次役員会

5月 京都支部総会 会長校長出席

6月 総会对策連絡協議会

7月 本部役員会

7月 評議員会

○前年度の特記事項

1. 京都支部結成

2. 屋定記念誌・名簿発行

3. 屋定閉校・役員組織確立

○今年度の特記事業 (総会迄)

1. 六〇周年記念事業対策

2. 京都支部総会と新入生歓迎会

3. 機関紙三号の発行

○今後の業務の重点 (総会以降)

1. 卒業四〇年事業の推進

2. 六〇周年記念事業の推進

3. 各年次役員組織の確立

4. 役員総会・懇親会の開催

○今年度の当番年次

10年会 南高22回生

20年会 南高12回生

30年会 南高3回生

40年会 見中15回生

50年会 見中6回生



編集後期

第三号をお届けします。京都支部結成に集まられた皆様、関西支部にまで発展されるようお願いいたします。今誌には校地南の桜並木道路コンクリート舗装作業の写真が入りました。勤労学習の根源です。事務局長の池谷幸平先生の令夫人が御逝去されました。陰のお力添えを頂きました。御冥福をお祈りします。

龍泉 公